

広島大学附属幼稚園

何とかしなきゃ！からの飼育小屋作り完成までの取り組み

保育環境づくりのポイント

現在幼児教育においては、SGDsを実現させるための幼児期からのESDが注目を集めている。「環境」「社会・文化」「経済」の3領域を通じて子どもの生活や遊びを支える視点を含め、自然とのかかわりを通して実践される。本園では、飼育活動等自然体験を深めることができるプログラムの開発を目指している。

本園で飼育しているウコッケイは、子ども達が入園して間もない頃は不安な気持ちを和ませてくれる存在であり、飼育活動を通して愛おしい気持ちや生命への関心、食育について考えるきっかけを与えてくれる存在である。今年度、飼育小屋の修繕を計画していたさなか、数羽のウコッケイが死んでしまう。当初の計画とは違う活動が子ども達主導で動いていく。思いを共有する時間と、専門家や保護者と協働する経験が、この活動における保育環境づくりのポイントである。

～こどもたちのこの力を育みたい～

- ☑感じる・気付く力
- ☑うごく力
- ☑考える力
- ☑やりぬく力
- ☑人とかかわる力

取組み内容

1. 気づきの共有・原因究明



傷口の状態の絵



- 友達と気持ちを共有する

- ☆餌が喉につまらないように小さく切ろう
- ☆オスとメスがけんかして背中から血が出てかわいそう（繁殖行動）
- ☆隙間からヘビ・ハチが入って死んだ？

援助：子どもへの専門家からの効果的な助言

- ★鶏の専門家に直接話を聞く

原因判明

- ・繁殖行動で出来た傷からの細菌感染
- ・イタチの侵入

☑感じる・気付く力・うごく力

2. 飼育小屋作りのアイデアの出し合い



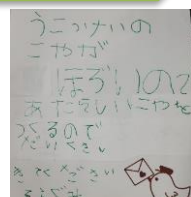
- クラス全員で共有（思いの伝え合い・発表）
- 絵、文字、写真で共有し、より良い飼育小屋を構想する

- ☆地面にトタンブロック壁を入れて隙間をなくし、イタチが入らない安全な飼育小屋にする
- ☆繁殖期にメスとオスを分ける場がある
- ☆卵を産む場所、ヒヨコを育てる場所を作る

援助：アイデアを出し切る時間の保障

☑考える力・人とかかわる力

3. 具体的に計画する



- 本で調べる・家族等に聞く
- グループで考える・クラス全員の意見をまとめる
- ★依頼

- ☆建築に必要な人（細かい作業が得意な人、お母さん、お父さん、大工さん…）、役割り(段取りを計画、作業をリードする人)、道具(板、レンガ、のこぎり、金槌、釘…)の共有
- ☆依頼（誰に？どうやって？）

援助：より自分事となるよう様々な方法で考える機をもつ

☑考える力・うごく力

4. 計画を実行する



- ・計画したことを実行する（飼育小屋の間仕切り・ふれあい広場作り・卵を温める場所小屋…）

- ☆木材磨き、色塗り、コンクリート作りと流し込み、仕切り板の取り付け…

- ☆作業の見学

援助：一度きりの活動にせず、計5回設定する。

大工さんとの作業以外のかかわりの保障。

(食事・見学する中で手伝いの交渉を行う機会)

- 自分達の活動に対するウコッケイの反応を知る
- 活動にかかわった人達全員で達成感を味わう（設計士・建築士・鳥の先生・保護者）

- ☆完成披露報告会・パーティーを計画中（3月）

援助：子どもたち自身が自分達の活動を振り返り、発信することで、クラスの仲間とともに作業したと満足感・達成感を感じる場となるようにする。

☑感じる力・うごく力・考える力
やりぬく力・人とかかわる力

☑感じる力・うごく力・考える力・やりぬく力・人とかかわる力



<今回の取組みを通して>

5つの力は、活動に向かう過程や事後を含めた心を動かす体験と、友達との感情を共有することで総合的に育まれるということを感じた。専門家や保護者と一緒に活動を楽しんだ経験は、将来様々な人と協働していくことに繋がっていくと考える。年長児クラス そらぐみ担任 中川 順子